



# やぐもだい

令和5年10月31日  
調布市立八雲台小学校  
校長 上田 義孝  
<http://www.chofu-schools.jp/yagumodai-sho/>



## 「読書の秋」

校長 上田 義孝

正門のキンモクセイが満開で、秋の香りの中、朝の登校の挨拶をする日々です。深まりゆく秋、中でも読書の秋の「本」について考えてみました。

急速なデジタル化を受けて、世の中でも本を読む人は、とても減っているように感じます。私が通勤してくる時に、スマートフォンの画面を見ている方は、9割以上と感じます。そして、本や新聞を読んでいる人はごく少数です。もちろん、デジタルの中の本を読んでいる方もいらっしゃると思いますが、画面から提供される情報サイトの記事をご覧になっている方のほうが、多いように感じます。読書離れは、大人にも子どもにも確実に進んでおり、本屋さんが閉店していくのを横目で見ている感じです。

GIGAスクール構想によって、子どもたちにも急速にデジタル化が進みました。「〇〇について調べてみよう」と発問すると、タブレットを使って、わずか数秒で様々な角度から調べることができます。つい何年か前までは、「図書室で調べてみましょう。」や、「どんな資料があるか、お家や図書館で調べてみるといいですね。」などと指導していた頃が、はるか昔のこのように感じます。

ところで、八雲台小学校の図書室には、1万冊以上の本があります。1年生で入学した日から、6年生で卒業する日まで約1250日の登校ですから、毎日8冊ずつ欠かさず読んでも読み切れない計算です。子どもたちに人気の「絵本」や「ひみつシリーズ」。お話の面白さのほかに、視覚から感じる「感覚」や「情報」はとても大切なものだと感じます。

本から学ぶことは、実はとても多く、たくさん手にとって欲しいのですが、読書の時間や、本の貸し出しだけでは、なかなか学びにまで結びつきにくいのではないかと感じます。

先日、伝統工芸士の方とお話しする機会があり、「どんなことを日々研鑽されているのですか」と尋ねたところ、「勉強、勉強、常に何かを学んでいます。私はまだまだ知らないことが多すぎます。学びと学びが結びついて、初めてこの形、工芸ができるのです。私は、毎月資料室などで、100冊位の本を並べ、必要なところを読み、それぞれの結びつきを考え、学んでいます。もちろん先人からも話を聞いて学んでいます。けれども、まだまだ・・・。」とおっしゃっていました。

このように、自分がものを知らないと悟っている人、そして人にもものをたずね、教えてもらおうとする謙虚さをもつ人、そして、本からの様々な情報や知識から、文字と視覚と学びが結びついている人ほど、人間として成長し、心や知識が豊かになるのだと思います。

本校の子どもたちにも、自分の無知や失敗を恐れることなく、素直にものをたずね、教えてもらい、何事にも挑戦していく姿勢を育てていきたいと思います。私も、子どもたちの学びに応えられる学校でありたいと、日々考えています。教職員も、国語を中心に指導の研究を深め、先日は調布市教育委員会の研究推進校としての発表を行い、子どもたちへの指導力の向上を図ろうと、学びを継続しています。

ご家庭でも一日一日を大切にしながら、親子で「本」を通して、学んでいく雰囲気や姿勢を育み、「読書の秋」かつ「実りの秋」を味わっていただければ、ありがたく思います。